

教科・科目（単位数）	芸術・音楽Ⅰ（２）	学年	１年
使用教科書・副教材等	MOUSA 1（教育芸術社）	集団	音楽選択
科目の目標 音楽に関する専門的な学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽や音楽文化と創造的に関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）音楽に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、表現意図を音楽で表すために必要な技能を身に付けるようにする。 （２）音楽に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、音楽の表現内容を解釈したり音楽の文化的価値などについて考えたりし、表現意図を明確にもったり、音楽や演奏の価値を見いだして鑑賞したりすることができるようになる。 （３）主体的に音楽に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、音楽文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。			
評価の観点とその趣旨			
①知識・技能	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 ・創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創造などで表している。		
②思考・判断・表現	・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。		
③主体的に学習に取り組む態度	・音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		
評価方法	①〔知識・技能〕 授業時に実施する課題、小テスト ②〔思考・判断・表現〕 歌唱 ③〔主体的に学習に取り組む態度〕 授業への取り組み、演奏活動		

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとめりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	歌唱（校歌）	伝統ある校歌を歴史と歌詞の意味を知り、校歌の深さを知り、しっかりと歌う。		○	
	楽典（知識と技能）	音楽の基礎である楽典を理解し、楽譜が読めるようになる。	○		
5	歌唱（日本歌曲）	歌唱に適した姿勢・呼吸法を学び、日本歌曲を歌唱してみる。 （花、この道、夏の思い出、故郷）		○	
	器楽（キーボード）	音階・拍使いを理解し、バイエル教本から正しい音符の長さなどに注意し、演奏してみる。	○		
	創作	音楽を形作っている要素の働きを理解し、変奏曲をつくる。 （星に願いを）	○		
6	歌唱（ポップス）	曲に適した歌唱法を学び、歌唱してみる。		○	
	器楽（キーボード）	和音（主要３和音）を理解し、弾いてみる。	○		
	創作	学んだ和音を使い、つくった変奏曲に伴奏を付ける。	○		
7	歌唱（イタリア・ドイツ・フランス歌曲）	それぞれの原語の歌唱法を理解し、各国の雰囲気を感じながら歌唱してみる。	○		

9	創作	つくった変奏曲（伴奏付）を発表会として演奏する。	○		
	歌唱（オペラ）	「オペラ」をDVD鑑賞し、総合芸術と言われている音楽を感じてみる。			○
	器楽（邦楽）	日本の和楽器の種類と名称をCDから聴き、音色の違いと名称を知り、日本の民謡と民俗芸能に触れる。		○	
	鑑賞	アジアや世界の様々な民族音楽に触れる。			
10	歌唱（ミュージカル）	「美女と野獣」を鑑賞し、「美女と野獣」を歌ってみて、オペラとの違いを感じる。			○
	器楽（キーボード）	簡単なアンサンブル曲を弾いてみる。 （4人以上のグループ）		○	
11	ボディー・パーカッション	手拍子や足踏みの仕方音色が異なることに気付き、それを生かした演奏ができる（グループ）		○	
	創作	手拍子や足踏み、机をたたく等の音を組み合わせ、テーブルミュージックを作曲する（グループ）	○		
12	歌唱	クリスマスソングを歌ってみる。	○		
	器楽（キーボード）	ベートーベン作曲“第九”から“喜びの歌”を弾いてみる。（グループ）		○	
1	器楽（キーボード）	アンサンブル曲を合奏してみる。	○		
2	歌唱（合唱）	合唱に適した姿勢、呼吸法で発声し、美しいハーモニーで合唱することができる。		○	

教科・科目（単位数）	芸術・書道Ⅰ（２）	学年	１年
使用教科書・副教材等	書Ⅰ（光村図書）	集団	書道選択
科目の目標 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）書の表現の方法や形式、多様性などのついて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。 （２）書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。 （３）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書をとって心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
評価の観点とその趣旨			
①知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的、創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。		
②思考・判断・表現	・書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。		
③主体的に学習に取り組む態度	・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。		
評価方法	①〔知識・技能〕 授業時に実施する課題や小テスト ②〔思考・判断・表現〕 作品、制作感想カード ③〔主体的に学習に取り組む態度〕 授業への取り組み		

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4 5 6 7	書写から書道へ 漢字の書 唐時代の楷書 孔子廟堂碑 九成宮醴泉銘	・小、中学校の国語科書写と高等学校の芸術書道は何が違うのか、を学び書への興味、関心を高める ・楷書の用筆、運筆法、字形のとり方、空間の処理の仕方等について理解し、表現技術を身に付けるようにする。 ・様々な楷書の基本的な特徴を理解する。	○		
	雁塔聖教序 顔氏家廟碑	・唐時代の古典の臨書を通して、伝統に根ざした技法の習得と表現法を身に付けるようにする。	○	○	
	北魏時代の楷書 牛橛造像記 鄭義下碑	・北魏時代の楷書と唐時代の楷書の違いを体現する。 ・力強く角張った方勢と丸みのある円勢を比較し臨書する。		○	○
	篆書 泰山刻石 篆刻 姓名印	・篆書の特徴を知り、漢字の変遷を学び取る。 ・篆書における印の意義を理解し、篆刻の手順に沿って自分の姓名印を制作する。		○	○
10 11	行書 行書の基本 蘭亭序 風信帖	・行書の特徴を理解し、運筆できるようにする。 ・書聖・王羲之について蘭亭序が生まれた背景を知り、その内容を味わいながら、王羲之書法の趣を捉える。 ・空海の風信帖を臨書し、中国と日本の書の関係性を味わう。また、日本の平安時代、三筆、三蹟の書を鑑賞し、学ぶ。		○	
			○		○

12	隸書 曹全碑	・隸書の特徴である扁平な字形、藏鋒の起筆、波磔、ゆったりとした用筆を学ぶ。		○	
	草書 真草千字文	・草書と楷書を対比させて草書の特徴である点画の省略や連続などを捉える。	○		
	作品制作 半紙作品	・創作あるいは、臨書で作品を制作する姿勢を身に付ける。何を書きたいのか自問し、何をどんな風に表現したいのか試行錯誤しながら制作した作品は、新春作展に出品する。		○	○
1	仮名の書	・仮名の書の線質を理解し、古典臨書から単体、連綿、ちらし書きを身に付ける。	○		
2	漢字仮名の交じりの書	・日本の書の歴史の中で、漢字仮名交じり文がどのように表現されてきたのかを見て、倣書の方法も理解し、漢字と仮名の交じった、心に響く言葉を探し、どんなイメージで伝えたいかを考えて創作する。		○	○

教科・科目（単位数）	芸術・美術Ⅰ（２）	学年	１年
使用教科書・副教材等	美術１（光村図書）	集団	美術選択
科目の目標 美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 （１）対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し創造的に表すことができるようにする。 （２）造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 （３）主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
評価の観点とその趣旨			
①知識・技能	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。		
②思考・判断・表現	・造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。		
③主体的に学習に取り組む態度	・美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。		
評価方法	①〔知識・技能〕 授業時に実施する課題や小テスト ②〔思考・判断・表現〕 作品制作 ③〔主体的に学習に取り組む態度〕 レポート、授業への取り組み		

学習計画

月	単元	単元や題材など内容のまとまりごとの学習目標	評価の観点		
			①	②	③
4	鉛筆デッサン 静物	身近なものを描く。身近な事物を感性を働かせ、深く見つめ、感じ取り、考えることができる。		○	
5	学校祭ポスター デザイン	主題を追及してデザインできる。	○		
6	着彩	色彩の特性を理解しデザインできる。		○	
7	着彩	デザインの重要性を理解し表現できる		○	
9	芸術鑑賞	フランスアニメーション 作者の心情意図、表現の工夫を感じ取り理解を深めることができる。			○
10	半立体模型 デザイン・ 構想	モチーフより感動や自己の想いを基に表現したいことの中心となるテーマを自ら作り出すことができる。		○	

11	骨格作り	素材の特性を理解し根気よく制作に取り組むことができる。	○		
12	着彩	アクリル絵の具の特性を理解し創意工夫ができる。		○	
1	フェルメール クレヨンによる 模写	作品をじっくり観察する事により、その作品の持つ魅力、視覚的効果について理解する。			○
2		光と影による表現方法について理解し、根気よく制作することができる。	○		